



大方あかつき館報

第19号
2013年7月発行

あかつき

ひとのぬくもりを紡ぎながら

〈館長のひとりごと〉

はじめに

37年の教師生活に終止符を打った。桜の開花前線を追いかけてながら、高知から北に向かって気ままな一人旅を長年夢みてきた。時には、厳しい状況の中で、くずおれてしまいそうな心を辛うじて支えてくれたのも、このささやかな夢である。

ところが、何の弾みかこの四月から「NPOあかつき」を立ち上げ、白亜の「大方あかつき館」にいる。「館長」という名刺はいただいたが、ネクタイを締め、館内の事務室でふんぞり返っているわけにはいかない。

まずは、環境整備から…。草刈り機を握り茫々と伸びきった草の手入れを。次は、屋上で雨漏り箇所を確認や落ち葉掃除、展示室やトイレの切れた

電球の交換。職員とともに、あたふたと動き回った。

殺風景だったエントランスの模様替えに手を付け始めたのは、四月も後半になってからである。

「金はないので。」と、とにかく心当たりの方々に声をかけまわった。学校時代にお世話になった授産施設「生華園」からは、生花と観葉植物の鉢をいくつか。結婚式で司会をしてもらった県展作家には、等身大の塑像「祈り」を。隣の小学校にいた木工の得意な退職校長さんには、文学館の表札や上林のレリーフを。恥ずかしげもなく甘え、無理を聞いてもらった。

学校との連携も考え、「ふれあいコーナー」を設けた。町内十一小・中学校の「学校だより」と「学校文集」を置かせてもらっている。

五月になって、やっと文学館・企画展の準備にとりかかった。

上林暁との出会い

実を言うと、私はこれまで上林のあまり熱心なファンではなかったように思う。十九巻の全集だけは、高知にいる頃に買い揃えてはいたが…。以前は、宮本輝を。この頃は、もっぱら藤沢周平の本を愛読していた。

上林暁との出会いは三度。

●最初は、中学一年の時

四十数年前、教頭として在職しておられた幡多作文の会の大先輩柿内実先生が、昼休みのたびに校内放送で、郷土の作家上林暁のいくつかの作品を読み聞かせてくれた。その中で鮮明に記憶しているのは、処女出版作「薔薇盗人(ばらとうにん)」ぐらいである。

●二度目は、高校二年生

部長をやっていた「文芸部」の文化祭の出し物として、学校(県立三中―現中村高校)の先輩上林暁の作品展を開催したのだ。病床ではあったが、上林自身元気に執筆中でもあり、何度か顧問の先生を通してお手紙を差し上げたやに記憶している。また、町内下田ノ口の実家にはお母さんもご健在であった。お訪ねし、写真や本、手紙などをお借りし展示したことだった。(高知にも取り上げられ、顧問が喜んで切り抜きをしてくれていた。)

●三度目が、今回の館長の仕事

この三ヶ月、上林の全集(十九巻)をひっきり返しながらあわてて読み始めている。以前に「薔

「薇盗人」「春の坂」、他の作家も高く評価する「野」など数編には目を通してはいたが、旧仮名遣いや旧漢字への抵抗もあり少し退屈なものだった。

しかし、今回資料室にある夥しい数の「生原稿」や「蔵書」「写真」「遺品」などに接しながら、改めて読み返してみると、なんだかスルメのようないい味がしてくる。じっくりと向き合い、噛めば噛むほど上林文学の底深さのようなものが感じられワクワクとした心地になるのだ。

純粹に文学を文学として楽しむだけではなく、マスクと白手袋をつけ、つけっぱなしの乾燥機のかすかな音だけをBGMに、資料室の机に向かって原稿と写真に見入っていると得も言われぬ高揚感に満たされる。上林の息遣いやペンの音さえ聞こえてくるようである…。

そうした時間と空間に包まれながら、私は上林文学のひそかな楽しみ方をみつけた。写真や遺品、蔵書などを傍らに置き、私小説の世界にわけ入っていくのだ。淡い恋心を抱いていた「真少女」の三冬やんとはこの女の子に違いないと、「田ノ口小百年史」の卒業写真をめくる。「春の坂」の秋恵姉とは、こんな人だったのか、ひとりほくそ笑む。「過ぎゆきの歌」の三郎や清美の生き様に、心ざわめく…。

生活綴方にも似た上林・「私小説」ならではの、こんな楽しみ方もあったのだ。

植田馨さんの「たんじまんじの記」「続たんじまんじの記」や野並浩さんの「ふる里を愛した上林暁」などを道標に読み進めていくと、さらなる楽しみがふえてくる。

ぜひ、ご来館を！

学芸員もいない文学館です。館長が、先輩たちの力をお借りしながら、作品研究、資料整理、企画展示もおこなわねばならない。無料は、観覧者にとってはありがたいことだが、企画展に使える予算は、ほんのわずか。

そんな中で、まさに崖っぷちからの出発です。だが、上林暁にかける先輩たちの熱いおもと、上林自身の生原稿や資料などはこの文学館にも負けてはいない…。

文学館の企画展

■第14回企画展

「薔薇盗人」作家として立つⅠ、Ⅱ

期間：Ⅰ期 6/1〜7/31

Ⅱ期 11/1〜〈2014年〉2/26

〈企画展に寄せて〉

今回の企画展は、上林暁の処女出版作「薔薇盗人」を取り上げました。

「薔薇盗人」は、上林さんがまだ改造社に勤

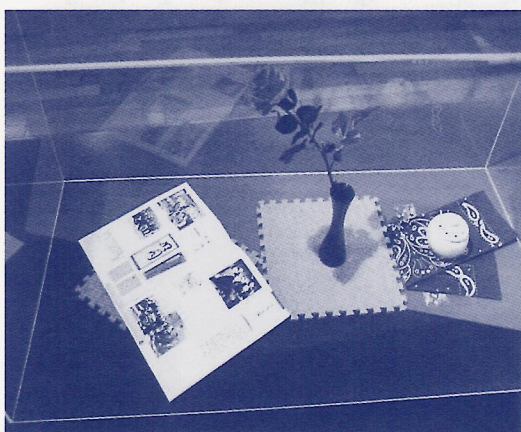
めていた昭和七（1932）年、「新潮」八月号に発表した短編小説である。上林さんは、この作品によって新進作家と目されるようになった。上林さんが、〈田園小説〉と呼んでいるこの作品の舞台は、明らかに郷土下田ノ口である。昭和八年七月、この小説を表題とする創作集「薔薇盗人」が金星堂から刊行された。上林さんの処女出版であり、印税なしでわずか五百部だったという。――

（植田馨・「たんじまんじの記」より）

上林自身、自作自解（三）のなかで、

『私には、際立った処女作というものが無い。数多くの習作を書いて、それがなくずしの処女作みたいになっていると言うほかはない。しかし、出世作を聞かれた場合には、ささやかな作品ながら、「薔薇盗人」と答えることにしている。』と述べています。

まさに、作家として立つことを決意させた上林暁の出世作のひとつだといえるでしょう。



■特別企画展

「散花（さんか）〜二人の特攻隊員〜」

期間：8／2〜10／30

作品「散花」（散華ではない）には、特攻隊員である従弟「野並哲」と親戚「宮川正」の戦死の報に接した上林自身の、また下田ノ口や早咲の親族や住民たちの高揚した様子が克明に描かれています。

同時に、お二人のご親族などからお借りした貴重な遺品、写真なども展示したいと考えています。特攻隊についての歴史的な判断を一方的に提示するのではなく、事実として展示し、見られた方ひとりひとりの心の内にその判断や思いを委ねる姿勢を貫きたいと考えています。

また、夏休みの期間中でもあり、多くの子どもたちの心にも届けられたらと思います。



■第15回企画展

「幡多の現代作家たち―横山充男と中脇初枝」

期間：〈2014年〉3／1〜5／31

中村出身で現在活躍中の二人の作家、横山と中脇を取り上げます。幡多で唯一の文学館としては、県立文学館に先駆け、地元出身の作家を積極的に取り上げていく責任があると考えています。この機会に両氏からは、いろんなつてを頼りながら、書籍や資料など寄贈していただけるのではないかと期待もしているところです。

（いずれ、町内出身のタカクラテル、大月町出身の詩人大江満雄なども取り上げられたらと考え、資料の収集中です。乞うご期待を！）

文学館や図書館は、作家や本（ことば）を通して「ひとのぬくもり」を感じ、確かめ合える空間。パンを与えることはできないかもしれませんが、生きている今にちよっぴり手ごたえを感じたり、癒されたりできる場所でもあります。大変身中の「大方あかつき館」。

機会をみつけ、ぜひ一度、ご来館ください！
（文責・やまおき こうき）

平成25年度・主な催し予定

文学館

◇第11回上林曉忌短歌大会

日時 7月27日（土）13時〜16時

会場 黒潮町保健福祉センター

講師 栗木 京子先生（現代歌人協会理事）

◇上林曉文学講座

（あかつき館2F会議室／14時〜16時）

*第一回 11／17（日）「人間らしさを紡ぎ合う」

*第二回 2／23（日）未定

◇上林曉の作品を読む会

（あかつき館2F会議室／14時〜16時）

*第二回 7／6（土）「薔薇盗人」

*第三回 10／5（土）「散花」

*第四回 2／1（土）「過ぎゆきの歌」

◇第24回あかつき賞表彰式

日時 3月8日（土）13時半〜

会場 あかつき館レクチャーホール

図書館

□夏休み映画上映会

日時 8／9（金）・10（土）・11（日）

会場 大方あかつき館レクチャーホール

□感想画（似顔絵・イメージ）コンクール展

募集 12月〜1月

展示 2月〜3月

会場 大方あかつき館／佐賀総合センター

□『光の切り絵』展（切り絵作家・酒井敦美さん）

日時 3／15（土）・16（日）

会場 大方あかつき館／佐賀総合センター



2012年度の催し点描

中山一志（等）句碑除幕式

2013年3月17日（日）に「文学の道づくり事業」の一環として、中山一志句碑の除幕式がありました。たくさんの方々が出席され、盛大に行われました。句碑は、賀茂八幡宮境内に建てられています。



第23回あかつき賞表彰式

町内5人の小・中学生が選ばれ、2013年3月9日（土）に大方あかつき館レクチャーホールで、多数の関係者の列席のもと、表彰式が行われました。



第12回上林暁忌俳句大会

2012年8月19日（日）に第12回上林暁忌俳句大会が、黒潮町保健福祉センターで開催されました。俳誌「勾玉」主宰の橋田憲明先生を講師に迎えて51名の参加がありました。



あかつき館への寄贈

植田雄二氏（前上川口小校長）より、「文学館表札」と「暁レリーフ」（木工）の寄贈がありました。

山岡良仁氏（彫塑作家・高知市）より、塑像「祈り」の寄贈がありました。一度見に来てください。

